

令和7年度 調布市立染地小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
あたたかく（自分も人も大切に作る力）たくましく（自分で考えて行動する力）まえむきに（自分からチャレンジする力） 生きる子どもの育成	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像	
みんなでつくる みんなが大好き 染地小学校 (児童・教職員・保護者・地域の一人一人が主役 みんなで力を合わせて大好きな母校をつくる)	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	・小規模校の強みとして「すべての児童をよく知り関わるができる」ことを全教職員で大切にしてきた。しかし、困っている児童や保護者に寄り添える学校として、まだまだ「成長の伸びしろ」があると考え。また、今年度からチーム担任制と学年教科担任制を導入し、すべての児童を全教職員で多面的・多角的に指導・支援を行う体制を整えていく。この学校を誰かがつくるのではなく、自分(児童・教職員・保護者・地域の一人一人)が、学校をつくっていくという思いや意識をもち、どう力を合わせて行動するかが今後の課題である。

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした 育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	- 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。 - 日常生活において、自他を大切にしたい伝え方で人と関わる力を高め、思考力や想像力を養う。 - 言葉がもつよさを認識するとともに、国語の大切さを自覚してその能力の向上を図ろうとし、「なりたい自分」の理想像に向かおうとする態度を養う。	- 漢字の読み書きの確実な習得に向けた、継続的に語彙や語句に触れる機会を増やす取組として読書活動を全校で実施する。 - 文章や情報を読み取り自分の考えを書き表す活動や、相手の思いや考えを聞く活動を通して、順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養う。 1単位時間の授業において1回以上、児童同士で伝え合う活動を取り入れ、言葉がもつよさを実感できるようにする。
社会	- 基礎的・基本的な知識の理解を図り、資料の活用や調べ学習を通して情報を適切にまとめる技能を身に付ける。 - 社会的事象の特色や関連、意味から学習課題を見だし、解決の見通しをもって学習問題を追究・解決し、考えたことを適切に表現する力を養う。 - よりよい社会を考え、主体的に問題を解決しようとし、「なりたい自分」の理想像に向かおうとする態度を養う。	- 基礎・基本となる知識については、ミライシードのドリルパークを活用して、反復練習を行うことで、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図れるようにする。 - 写真やグラフ、地図などの資料から情報を読み取り、分かったことや気付いたことを話し合ったり、調べてまとめたりする活動を行うことで、根拠を基に自分の考えをまとめられるように指導する。 - ペアやグループ内で発表する場を作ることで、一人一人の発表機会を増やし、主体的に対話的な学びができるようにする。
算数	- 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質を理解し、自立的、協働的に解決する技能を身に付ける。 - 見通しをもち、筋道立てて考察したり、具体物、図、式、表、グラフなどの数学的な表現を柔軟に用いて、事象を簡潔・明瞭・的確に表現したりする力を養う。 - 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、よりよく問題解決しようとし、「なりたい自分」の理想像に向かおうとする態度を養う。	- 習熟度別少人数指導を実施するとともに、東京ベシックドリルなどを活用して、反復練習を行うことで、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 「問題把握、解決の見通し、問題解決、練り上げ(検討・共有)、まとめ、練習、振り返り」の流れを一貫して行うことで、自立的、協働的に問題を解決する力を養う。また、問題解決の際、言葉、式、図、数直線などを用いて考えをノートにまとめたり、説明したり、考え方を共有したりする時間を設定することで、思考力・判断力・表現力を養う。 - 学習の終末に学習状況を振り返り、成果や課題、新たな目標を自分の言葉でまとめることで、学びを次につなげられるようにする。
理科	- 自然の事物・現象についての性質や規則性などの理解を図り、観察や実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 - 問題を見だし、見通しをもって観察・実験方法を考えて実施し、問題を解決する力を養う。 - 粘り強く、他者と関わり合いながら問題解決しようとし、「なりたい自分」の理想像に向かおうとする態度を養う。	- ミライシードのドリルパークを活用して、反復練習を行うことで、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 - 自分の体験や経験したことを想起し、複数の事物や現象を比較し、その差異点や共通点を考える活動を行うことで、問題をみだし、予想や仮説を立てられるようにする。 - ペアやグループで役割を分担して問題(実験や観察・記録)を解決する協働的な学びを行う。
生活	- 具体的な活動や体験を通して、自分自身と身近な人々とのつながり、社会及び自然の特徴やよさに気付き、生活上必要な習慣や技能を身に付ける。 - 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとする態度を養う。	- 活動を通して自然に目を向けさせ、見る、聞く、触れる、探すなどによって自分との関わりを深めさせ、知的好奇心や探求心などを育む。また、人との関わりの中で、ルールやマナーなど生活上必要な習慣や技能を身に付けさせる。 - 育てる活動や創り出す活動を通して、見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な体験をさせ、さらに自発的な活動へとつなげる。

音楽	・読譜に困難を抱える児童も、他の児童と同じように演奏する技能を身に付け、達成感を味わうようにする。 ・お互いの演奏をクラス全体や異学年同士で聴き合う活動を通して、自他を認め合う態度を養う。	・ペア学習によって互いに教え合う活動を取り入れる。フィギュアノートなどの視覚的に音名を弁別しやすい楽譜の作成を心がける。 ・発表会の日時を早い段階から知らせ、なりたい自分をイメージさせる。聴き合う活動では、それぞれのよさが伝わるよう、児童の感想に言葉を付け加える。
図画工作	・活動全体の中で、自分自身を表現することで、児童の自己肯定感を高める。 ・創造することの喜びを知る。 ・作品づくりをする中で自ら課題を見付け、解決する能力を培う。 ・お互いの作品の鑑賞を通して他を認めることにより、思いやりの心を育てる。	・児童一人一人がもつ特徴やよさを教師側がしっかりと把握し、児童のがんばりや得意なことを伸ばしていくような指導を行う。 ・創造的活動を促すような題材の工夫をする。 ・児童が自分自身で問題解決することを喜びと感ずる題材を設けたり、道具や使い方の基礎・基本を身に付ける時間を計画したりしていく。 ・鑑賞の時間では、それぞれの作品のよさに注目させる。
家庭	・日常生活に必要な基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付ける。 ・家族の一員としての自分の成長を自覚し、家族の大切さや家庭生活が家族の協力によって成り立つことに気付く。 ・生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。	・実践活動では、グループや二人組など友達との協力や教え合いを取り入れるとともに、丁寧に個別指導を続ける。 ・自分自身の成長は家族の理解や愛情に支えられていることに気付くことができるよう、第4学年までの学習を振り返えらせる。 ・日常生活の中から問題を見いだして、課題を設定し、解決方法を考え、課題に向けた実践活動を行う。また、実践活動を評価・改善し、家庭や地域での実践につなげる。
体育	・その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付ける。 ・運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指そうとし、「なりたい自分」の理想像に向かおうとする態度を養う。	・易しい場を設定したり、用具や規則を工夫したりすることで、運動が苦手な児童でも楽しく運動に取り組めるようにする。 ・一人一台端末を活用して動きを確認できるようにしたり、運動のポイントなどを示した連続図を視覚的に提示したりすることで、自己の課題を見付けられるようにする。また、ペアやグループで動きを見合い、出来栄を伝え合う活動を行うようにする。 ・「体づくり運動」をはじめとした内容と、「心の健康と運動」「病気の予防の運動の効果」など運動領域と保健領域とを関連付けて指導するようにする。
外国語	・外国語の音声や文字などについての理解を図り、読んだり書いたりすることに慣れ親しむ。 ・なじみのある表現を使って、自分の好きなものや一日の生活などについて、友達に質問したり答えたりするコミュニケーション能力を育てる。 ・主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	・英語表現とイラストや写真を結び付けて、活用場面を分かりやすくイメージさせて活動する。また、ALTとのやりとりをモデルとして示すことで内容や表現を理解できるようにする。 ・英語表現を「読む」活動では、スモールステップで行い、文字と音を合わせるようにする。また、「書く」活動では、リズムをとって指導する。 ・ゲームやアクティビティなどを多く取り入れ、友達やALTと主体的に話したり、聞いたりする活動を設定する。
道徳科	・自己を見つめ、物事を多角的・多面的に考える力を養う。 ・自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 ・自分も友達も大切にして自信をもって行動しようとし、「なりたい自分」の理想像に向かおうとする態度を養う。	・二項対立の物事や多様な価値観と接する場を設ける。教材の登場人物の心情と自分の関わりについて、発問や板書を工夫して授業を行う。 ・場面について、児童自身の考えの根拠を問う発問や、実際の自分にあてはめて考えることを促す発問を設定したり、問題解決のための役割演技を実演させたりする。 ・児童が自信をもつことができるよう、友達と交流したり互いに認め合ったりする活動を積極的に取り入れる。
外国語活動	・簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、自分の気持ちなどを伝えようとする態度やコミュニケーション能力を育てる。	・活用場面を実感できるよう、イラストや具体物を用いて、活動を行う。 ・ゲームやアクティビティを多く取り入れて、外国語に慣れ親しむ機会を設ける。